



森本千代子役
主演 比嘉 愛未さん

佐渡は人と自然がすごく近い距離にあるところ。佐渡の人たちの温かさを感じました。

今回のお話は、佐渡の人たちの人情や助け合い、思いやりの物語なので、主人公はみんななんですよね。佐渡に住んでいる人たちが全員が主人公であり、誰一人欠けちゃいけない。主役としての自覚は持ちつつもチームワークをまず大事にしようと、そういう気持ちで撮影に挑んでいました。

2週間の撮影中いろんなことがあって、記録的な寒波や地震もあり、結構大変でした。過酷な撮影にはなったのですが、周りを見ればみんな同じ状況の中で、必死に頑張っているんですよ。不思議と力がわいてきますね。寒いけれど周りに助けられた、それが作品の中でもにじみ出てくるんじゃないかな、と思います。

佐渡の方々にはエキストラとして作品に参加していただいたり、ボランティアとして協力してくださったって、皆さんに支えられて一次ロケは無事に進むことができました。「飛べ！ダコタ」の実話は、たぶん昔からそういうふうな助け合っているのが当たり前だったんだなって思わせてくれるような、いろんな出会いがあったので、皆さんが「いい佐渡の映画ができてよかった」と思ってくれるような作品にしなければと思います。

ずっと残る作品にしたいので、引き続き力を抜かずワンシーンワンシーン一杯演じていこうと思います。ご協力よろしくお願ひします。

✈ インタビュー



監督 油谷 誠至さん

佐渡の天候の七変化がしっかり映っているの、ただ晴れ間だけや雪だけの映像と違って、すごく奥行きがあるいい映像がたくさん撮れているのではないかと思います。若い俳優さん二人の芝居も非常にいいです。

多くの地元のエキストラの方、ボランティアの方たちが参加してくれましたが、一緒に皆さん明るくて、すごく寒かったんですが、くじけたり音を上げたりする人もなく、楽しんで撮影に参加してもらったので、よかったですと思っています。次回もまたもつととたくさんの方々に出ていただかなければならないと思っていますので、そのときもぜひよろしくお願ひします。



木村健一役 窪田 正孝さん

毎日、(出演者・スタッフの)みんなで同じ釜の飯を食べて、同じ目的地に行つて、佐渡の自然を目の当たりにし、(撮影では)ああしたいとかこうしたいとかというよりも、自然なものが生まれてくるというか、この佐渡の地でなければできないことだなと心から感じますね。

(役で) 右足をひきずつての撮影は、砂浜を歩いたりするだけでも大変です。いまままでこういう役をやったことがなかったの、健康であることがどれだけ幸せなことかというのと、それによって周りの人に助けってもらっていることへの感謝の気持ちを、木村健一を通して改めて感じました。

嫉妬とか葛藤とか、健一の心の揺れ動く部分が映像で伝わっていただければいいなと思います。